

## 環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	コンパクトエコシティ戦略 ～環境イノベーションによるコンパクトシティからコンパクトエコシティへの進化～																																													
提案団体	青森市	人口：311,508人																																												
担当者名及び連絡先	担当者の所属 青森市環境部環境政策課 氏名 嶋口 幸造 電話番号:017-761-4412 / ファックス番号:017-761-4334 メールアドレス: <a href="mailto:kankyo-seisaku@city.aomori.aomori.jp">kankyo-seisaku@city.aomori.aomori.jp</a>																																													
1 全体構想																																														
1-1 環境モデル都市としての位置づけ																																														
<p>青森市は、北を陸奥湾に面し、市域面積の約70%を森林が占める水と緑に囲まれた人口31万人を有する中核市であるとともに、国の特別豪雪地帯に指定されている多雪寒冷都市である。</p> <p>本市では、都市計画マスタープラン（平成11年6月）において、まちづくりの基本理念として「コンパクトシティの形成」を掲げ、雪や災害に強く、人口減少・少子高齢化に対応した、環境調和型の都市を目指すこととし、その後一貫して、長年の投資により培われた社会資本や商業機能が高度に集積した中心市街地の活性化と、市街地の無秩序な開発の抑制を車の両輪として、持続可能なまちづくりを推進している。</p> <p>主な取組として、国の第1号認定を受けた中心市街地活性化基本計画に基づく施策展開と、準工業地域への土地利用の規制（平成18年10月条例化）により都市構造のコンパクト化を進め、都市内移動のエネルギー・ロスや都市運営コストの軽減を図るほか、化石燃料から自然エネルギーを活用した除排雪に転換を図ることなどにより、CO2排出量の削減をはじめ自然環境との調和を進めているところである。</p> <p>現在、これまでの土地利用のコントロールに加え、コンパクトシティの完成形に向け、平成22年に予定されている東北新幹線新青森駅開業を踏まえ、中心市街地、交通拠点、周辺市街地等を結ぶ「人と環境にやさしい公共交通システム」の構築を目指し、並行在来線を都市間交通から都市内交通へと転換し、鉄道網とバス路線網との連携強化による利便性向上を目的とした「総合都市交通戦略」の策定を進めており、これらを通じ「コンパクトシティ」から「コンパクトエコシティ」への進化を遂げようとするものである。</p>																																														
1-2 現状分析																																														
1-2- 温室効果ガスの排出実態等	<p>本市のCO2排出量内訳は、家庭部門と業務部門が他部門に比べて多く、傾向としては、家庭部門は平成12年度と平成16年度との比較で減少傾向にあり、業務部門は増加しているものの全国と比較して伸率は小さくなっており、排出量全体としては既に減少に転じている。</p> <p>この現象は、これまで一貫してコンパクトシティに取り組んできた成果であるものと考えており、今後においては、最終段階を迎えるコンパクトシティをさらに高度化することにより環境調和型都市の実現を目指すことと、市民の省エネ型ライフスタイルの確立を目指すことを車の両輪として、CO2排出量の大幅削減を目指すものである。</p> <p>&lt;青森市のCO2排出量&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部 門</th> <th colspan="2">平成12年度</th> <th colspan="3">平成16年度</th> </tr> <tr> <th>排出量(万t)</th> <th>構成比(%)</th> <th>排出量(万t)</th> <th>構成比(%)</th> <th>対H12比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家庭部門</td> <td>69.9</td> <td>30.3</td> <td>64.3</td> <td>29.9</td> <td>91.9</td> </tr> <tr> <td>業務部門</td> <td>64.3</td> <td>27.8</td> <td>66.9</td> <td>31.1</td> <td>104.0</td> </tr> <tr> <td>産業部門</td> <td>54.8</td> <td>23.7</td> <td>42.1</td> <td>19.6</td> <td>76.8</td> </tr> <tr> <td>運輸部門</td> <td>42.0</td> <td>18.2</td> <td>41.9</td> <td>19.5</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>231.0</td> <td>100</td> <td>215.2</td> <td>100</td> <td>93.1</td> </tr> </tbody> </table>					部 門	平成12年度		平成16年度			排出量(万t)	構成比(%)	排出量(万t)	構成比(%)	対H12比(%)	家庭部門	69.9	30.3	64.3	29.9	91.9	業務部門	64.3	27.8	66.9	31.1	104.0	産業部門	54.8	23.7	42.1	19.6	76.8	運輸部門	42.0	18.2	41.9	19.5	100.0	合 計	231.0	100	215.2	100	93.1
部 門	平成12年度		平成16年度																																											
	排出量(万t)	構成比(%)	排出量(万t)	構成比(%)	対H12比(%)																																									
家庭部門	69.9	30.3	64.3	29.9	91.9																																									
業務部門	64.3	27.8	66.9	31.1	104.0																																									
産業部門	54.8	23.7	42.1	19.6	76.8																																									
運輸部門	42.0	18.2	41.9	19.5	100.0																																									
合 計	231.0	100	215.2	100	93.1																																									

1-2- 関係する既 存の行政計 画の評価	計画の名称及び策定期	評価
	青森市総合計画 - ネクスト Aomori 推進プラン - (平成 18 年度策定)	将来都市像「恵み豊かな森と海 男・女(ひと)が輝く 中核都市」 の実現に向けた手段(=政策)として、「持続可能な循環型社会の形 成」を明確に位置づけ、市民のライフスタイルや新エネルギーの導入 など、地球環境への負荷低減を推進している。
	青森市環境方針 (平成 17 年度)	環境への負荷の少ない持続可能な都市「青い森 青い海を活かした 環境都市」の実現を目指すこととし、本市においてあらゆる取組を 展開する際に遵守すべき最も重要な理念として位置づけている。
	青森市都市計画マ スタープラン (平成 11 年度策定)	本市のまちづくりの基本理念を「コンパクトシティの形成」と定め、 雪に強い都市、少子高齢化に対応した都市、環境調和型の都市、災害 に強い都市及び効率的で快適な都市を目指すこととしている。
	中心市街地活性化 基本計画 (平成 18 年度認定)	コンパクトシティ形成の核となる中心市街地について、「ウォークア ブルタウン」(歩いて回ることでできる質の高い生活空間)の創造を目 標に掲げている。
	青森市地球温暖化 対策実行計画 (平成 19 年度策定)	平成 12 年度に策定した前計画(旧青森市)では、平成 16 年度までに 温室効果ガス排出量を 9%削減し、合併後に策定した本計画では、平 成 22 年度までに 16%の削減を目標としている。
	新エネルギー・省エ ネルギービジョン (平成 20 年度予定)	青森市総合計画に掲げた政策、青森市環境方針に掲げた都市像の実現 に向け、新エネ省エネの導入・普及について、市・事業者・市民が一 体となった取組を推進することを目的に策定を予定している。
青森市総合都市交 通総合戦略 (平成 20 年度予定)	コンパクトな都市構造の下で、環境負荷が少ない鉄道と路線バスとの 有機的な結合により、中心市街地、周辺市街地等を快適に結ぶ人と環 境にやさしい公共交通システムの構築を目的に策定を予定している。	

### 1-3 削減目標等

1-3- 削減目標	<p>中心市街地への都市機能集約と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造及び人と環境にやさしい交通システムの構築による持続可能な都市の完成と、市民の省エネ・ライフの確立を車の両輪として進めることにより、長期的な CO2 の削減目標として、2050 年までに CO2 排出量を平成 16 年度比 50%以上の削減を目指すこととし、中間的な目標としては、2020 年までに CO2 排出量を平成 16 年度比 30%以上の削減を目指すこととする。</p> <p>なお、部門別の CO2 排出量の削減目標は、本市の CO2 排出傾向と今後の取組を踏まえ、次のように設定する。</p> <p>&lt; 部門別の削減目標 &gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>家庭部門</td> <td>現排出量 64.3 万 t</td> <td>削減量 20.7 万 t</td> <td>削減率 32%</td> </tr> <tr> <td>業務部門</td> <td>現排出量 66.9 万 t</td> <td>削減量 23.2 万 t</td> <td>削減率 35%</td> </tr> <tr> <td>産業部門</td> <td>現排出量 42.1 万 t</td> <td>削減量 4.7 万 t</td> <td>削減率 11%</td> </tr> <tr> <td>運輸部門</td> <td>現排出量 41.9 万 t</td> <td>削減量 17.0 万 t</td> <td>削減率 40%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>現排出量 215.2 万 t</td> <td>削減量 65.5 万 t</td> <td>削減率 30%</td> </tr> </table>	家庭部門	現排出量 64.3 万 t	削減量 20.7 万 t	削減率 32%	業務部門	現排出量 66.9 万 t	削減量 23.2 万 t	削減率 35%	産業部門	現排出量 42.1 万 t	削減量 4.7 万 t	削減率 11%	運輸部門	現排出量 41.9 万 t	削減量 17.0 万 t	削減率 40%	合計	現排出量 215.2 万 t	削減量 65.5 万 t	削減率 30%
家庭部門	現排出量 64.3 万 t	削減量 20.7 万 t	削減率 32%																		
業務部門	現排出量 66.9 万 t	削減量 23.2 万 t	削減率 35%																		
産業部門	現排出量 42.1 万 t	削減量 4.7 万 t	削減率 11%																		
運輸部門	現排出量 41.9 万 t	削減量 17.0 万 t	削減率 40%																		
合計	現排出量 215.2 万 t	削減量 65.5 万 t	削減率 30%																		

<p>1-3-削減目標の達成についての考え方</p>	<p>中心市街地への都市機能集約と市街地の拡大抑制といった視点から、土地利用をコントロールするコンパクトシティの形成を推進してきたことにより、エネルギー消費が少ない都市構造が構築されつつある中で、今後は、コンパクトシティの完成形に向け、中心市街地と郊外部とを結ぶ人と環境にやさしい公共交通システムの構築を進め、CO2 排出量の大幅削減を目指す。</p> <p>さらには、近年の製造品出荷額の減少に伴い産業部門の CO2 排出量全体の減少傾向が見られるが、平成 20 年度から具体化を進める青森県及び東北圏域の大学と連携した新エネルギー開発をはじめ、自然エネルギーを活用した環境負荷の少ない雪対策、コンパクトシティにより保全された森林・農地から得られる豊富なバイオマス資源の利活用などを通じて、新エネルギー等に関連する新たな産業育成の取組と併せて、化石燃料に過度に依存しない事業活動への転換を促進することにより、一事業所当たりの CO2 排出量の削減を目指す。</p> <p>また、本市人口の逡減傾向を背景に家庭部門の CO2 排出量全体の自然減が想定される中で、さらに一步踏み込み、CO2 排出量削減の取組を市全体に波及させる仕組みを導入するとともに、次世代を担う青少年への環境教育の充実などにより、持続できる省エネ・ライフの確立を進め、市民一人当たりの CO2 排出量の大幅削減を目指す。</p>
<p>取組み方針</p>	<p>削減の程度及びその見込みの根拠 【数値はCO2削減量,単位:万t】</p>
<p>公共交通・イノベーション エネルギー消費が少ないコンパクトな都市構造の推進と併せ、人と環境にやさしい公共交通システムの構築により、公共交通機関を利用できる市民の割合を98%まで上昇させ、運輸部門におけるCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>鉄道・バス連携システム構築 0.1 都市計画道路整備の推進 0.9</p>
<p>雪対策・イノベーション エネルギー消費が少ないコンパクトな都市構造の推進による除排雪の効率化と併せ、家庭・事業所の雪処理を化石燃料から自然エネルギーに転換することにより、業務・運輸部門におけるCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>除排雪の効率化 0.1 化石燃料を使用しない流・融雪溝 0.2 化石燃料を使用しない歩道融雪 0.1</p>
<p>エネルギー構造・イノベーション コンパクトシティの推進により保全された森林や農地から得られるバイオマス資源や新エネ・未利用エネルギーの開発、導入により、化石燃料に過度に依存しないエネルギー構造を構築し、各部門におけるCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>バイオマスタウン構想の推進 5.1 新ごみ処理施設の建設 1.0 未利用エネルギー等の活用、植林活動 5.7 東北エネルギー研究センター設置</p>
<p>ライフスタイル・イノベーション コンパクトな都市構造の実現による大幅なCO2排出量の削減に止まらず、その中に暮らす市民が積極的にCO2削減に取り組める仕組みを導入することにより、省エネ・ライフへの転換を促進し、各部門におけるCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>建築物の省エネルギー化 16.8 省エネ住宅・家電への転換 12.4 エコライフ、エコドライブ等 21.6 ごみの減量化、リサイクルの推進、レジ袋の使用削減 1.6</p>

1-3- フォローアップの方法	<p>毎年度、青森市における各部門別エネルギー消費量について把握・検証する。</p> <p>また、業務部門、産業部門、家庭部門、運輸部門の各部門の主要な施策に、定量的に評価・検証できる目標指標を設定し、庁内横断組織である「青森市環境政策検討会議」と、市民をはじめ、地元企業、NPO、大学等が参画する「(仮称)青森市地球温暖化対策地域協議会」において、毎年度、評価・検証することにより、次年度以降の施策展開に反映させていく。</p> <p>&lt;各部門の施策数と指標数&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>家庭部門</td> <td>3 施策 (指標数 5)</td> </tr> <tr> <td>業務部門</td> <td>12 施策 (指標数 12)</td> </tr> <tr> <td>産業部門</td> <td>3 施策 (指標数 4)</td> </tr> <tr> <td>運輸部門</td> <td>9 施策 (指標数 8)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>27 施策 (指標数 29)</td> </tr> </table>	家庭部門	3 施策 (指標数 5)	業務部門	12 施策 (指標数 12)	産業部門	3 施策 (指標数 4)	運輸部門	9 施策 (指標数 8)	合計	27 施策 (指標数 29)
家庭部門	3 施策 (指標数 5)										
業務部門	12 施策 (指標数 12)										
産業部門	3 施策 (指標数 4)										
運輸部門	9 施策 (指標数 8)										
合計	27 施策 (指標数 29)										

1-4 地域の活力の創出等

中心市街地への都市機能集約と市街地の拡大抑制といった視点から、土地利用をコントロールするコンパクトシティが完成することによって、省エネルギー型の環境調和都市が実現するほか、次の都市像が実現する。

**【雪に強い都市】**

- 除排雪延長の抑制や流融雪施設の効率的配置等により、効率的で効果的な雪対策が可能となる。

**【超高齢社会に対応した都市】**

- 移動距離が少なく、高齢者や車椅子利用者等の交通弱者の社会参加が容易となる。
- 高齢者向け住宅などの居住機能の中心部への集約化により、高齢者にやさしい冬でも快適な居住環境が実現する。

**【災害に強い都市】**

- 地震等災害時における避難・救助ルートの確保、短縮が可能となる。
- 震災時には市民活動の活用が不可欠であるが、都市機能の集約化を進める中で、土地の高度複合利用等による住機能の集約化等を促進し、一定規模のコミュニティ人口を擁することによって、災害時の相互扶助の助け合いやボランティア活動等を可能とする、地域・地区単位での自立したコミュニティ防災機能の確立を促進する。

**【快適で効率的な都市】**

- 都市機能の集約化により交通渋滞の抑制が図られるほか、効率的な都市施設配置により生活の利便性が向上する。
- 中心市街地の拠点性が高まり、賑わいや活性化が促され、商業・業務機能の回復・強化が図られる。
- 居住地・就業等都市機能間のアクセス性が向上し、すべての市民に快適な都市環境が実現する。

2 取組内容 ( 取組内容の整理にあたっては「1-3- 削減目標の達成についての考え方」に記載された取組内容の整理の枠組みを基礎とした柱に沿って取組を分類すること。)

2-1 公共交通・イノベーションに関する事項

2-1- 取組方針

中心市街地の活性化や大規模集客施設の郊外立地の規制等により、都市機能を中心市街地に集約させるとともに、郊外から中心市街地への移動を既存の公共交通（鉄道及び路線バス）ストックを有効かつ効率的に活用することによって、運輸部門のCO2排出量の削減を目指す。

特に既存公共交通インフラの効率化に向けては、将来的に、鉄道の新駅設置による利用可能人口の増加や、バスと鉄道との乗換え利便性の向上を図るための鉄道・バスの共通決済システム（共通ICカード）の導入により、公共交通機関を利用できる市民の割合を98%まで上昇させることを目指す。

2-1- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
<p><u>(a) 鉄道・バス連携輸送システムの構築</u></p> <p>鉄道の駅設置によるLRT的な輸送効率の向上を図るとともに、バスとの連携を図り、鉄道との競合を避けるバス路線の再編を行うことによりCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>青森県 青森市（公営バス事業者） H25まで</p>	<p>指標...バス路線の再編によるバス実車走行距離の削減 バス実車走行距離の削減による2020年CO2削減見込...1,128t</p>
<p><u>(b) まち - 公共交通を繋ぐ共通決済システムの導入</u></p> <p>中心商店街と公共交通機関の共通決済システム（共通ICカード）の導入により、中心商店街と公共交通機関の魅力と利便性の向上を図ることによりCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>交通事業者 中心商店街 H25まで</p>	<p>指標...運賃決済のICカード発行枚数 バス乗降時間の短縮による2020年CO2削減見込...3t</p>
<p><u>(c) 都市計画道路の整備促進</u></p> <p>路線バスの定時性を担保するための効率的な街路ネットワーク整備を推進することによりCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>青森県 青森市</p>	<p>指標...都市計画道路の改良率 道路網整備による2020年CO2削減見込...9,000t</p>

2-1- 課題

(a)(b)ともに交通事業者間相互の協力関係を強化する必要があるとともに、新駅設置やバス乗継ぎミナターミナルの整備、ICカードの導入等のための財源確保が大きな課題である。

2-2 雪対策・イノベーションに関する事項		
2-2- . 取組方針		
<p>国・県・市の道路管理者相互による除排雪情報の共有化により除排雪作業の効率化を図るとともに、自然エネルギー等を活用した環境にやさしい除排雪対策を推進することにより、化石燃料の消費量を縮減させ、雪対策関連のCO2削減を目指す。</p>		
2-2- . 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p><u>(a) 流・融雪溝の整備</u>          自然エネルギー等を活用した環境にやさしい流・融雪溝の整備により、1世帯当りの雪対策に係る化石燃料消費量を縮減することによってCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>青森市          H25 まで</p>	<p>指標...流・融雪溝整備延長          融雪のための灯油使用量削減による2020年CO2削減見込...2,163t</p>
<p><u>(b) 化石燃料を使用しない歩道融雪システムの整備</u>          青森市冬期バリアフリー計画に位置づけられている快適な歩行者空間の実現を目指す区域内の歩道融雪について、海水熱、空気熱、地熱などを活用した融雪システムを導入することによってCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>国・青森市</p>	<p>指標...地熱利用歩道融雪整備延長          歩道融雪のための電力使用量の削減による2020年CO2削減見込...337t</p>
<p><u>(c) ためない除排雪や除排雪情報の共有化による除排雪の効率化</u>          除雪した雪を一時的に堆雪して排雪する方法から、ためない・こまめな除排雪を実施し、道路管理者相互による除排雪情報の共有化を図ることによって除排雪の効率化を促進し、冬期間の渋滞の緩和とコストを縮減することによってCO2排出量の削減を目指す。</p>	<p>青森市          青森県          国道維持出張所          H25 まで</p>	<p>指標...平均バス走行速度          バス走行速度向上による2020年CO2削減見込...123t</p>
2-2- 課題		
<p>(a) 流・融雪溝、歩道融雪の整備費や低燃費の除排雪車両の購入費など財源確保が大きな課題となる。          (c) 除排雪情報の共有化については、国・県・市の道路管理者相互の協力が必要条件であり、情報公開に当たって十分な協議が必要になる。</p>		

2-3 . エネルギー構造・イノベーションに関する事項

2-3- 取組方針

コンパクトシティの推進によって保全された郊外部の森林や農地等から発生するバイオマスを活用したBTL、ペレットの製造などによりバイオマスタウンの形成を推進するとともに、青森県、青森市及び東北圏域の大学の連携により共同研究機関を設置し新エネルギー開発を進めるほか、廃棄物焼却に伴う熱や地中熱、太陽光、風力などの未利用エネルギーを活用し、化石燃料に過度に依存しないエネルギー構造への転換を目指す。

2-3- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p><u>(a)新築、増改築時における省エネ住宅への転換促進</u>                      高气密高断熱住宅は、エネルギー消費量が少なく、1世帯あたり、ヒバ60本が吸収するのと同等のCO2削減(年間0.64トン)が可能といわれる。また、CO2削減に対応したエコキュートや太陽光発電も普及してきており、住宅の省エネ化促進の貸付制度や利子補給制度を創設するなど、市民の住宅環境の改善を図ることによってCO2排出量の削減を目指す。</p>	青森市 H21から	指標...省エネ住宅改修率(市担当課のデータ及び住宅・土地統計調査等により把握) 省エネ住宅改修による2020年CO2削減見込...40,273t
<p><u>(b) 道路・歩道への省エネ照明導入</u>                      市内全域に設置されている「防犯灯」及び「道路灯」を省エネタイプの照明灯に切り替えることによりCO2の削減と、安全・安心なまちの実現を目指す。</p> <p>防犯灯(31,516灯、蛍光灯 LED灯)5w/h/灯削減                      道路灯(1,545灯、水銀灯 ナトリウム灯)120w/h/灯削減</p>	青森市 H21から	指標...LED灯、ナトリウム灯導入灯数 道路照明に係る電力使用量削減による2020年CO2削減見込...658t

2-3-- 課題

(b)LEDタイプの防犯灯は蛍光灯と比べて導入コストが高く、財源確保が大きな課題となる。

2-4 . ライフスタイル・イノベーションに関する事項		
2-4- 取組方針		
<p>雪寒都市である青森市は、地球温暖化の影響を最も受けやすい地域のひとつである。「冬は資源であり、財産である」というスローガンの下で、環境問題等に長年取り組んできた世界の冬の都市市長会のメンバーである本市は、これまでも市民団体と共にライフスタイルのあり方を探ってきたところである。</p> <p>コンパクトシティの推進に加え、より一層北国にふさわしい省エネ・ライフを確立し、CO2 の削減を目指すとともに、将来的に、地域レベルから国際レベルへと取組の輪を広げ、地球温暖化防止に貢献する。</p>		
2-4- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p><b>(a)環境に関する学習の推進</b></p> <p>地球温暖化などの環境問題について、遊びや調べを通して、考え、実践する「(仮称)地球にやさしい地域づくり委員会」(児童、PTA、地域で構成)を各小学校に設置し、環境専門員として、環境に関する専門知識を有し環境活動を指導できる者を配置するとともに、それぞれの学校での活動についての情報交換や新知識を学習する場(環境ネットワーク)を設ける。</p> <p>出前講座用として、電気等を動力源とする環境バスを運行し、環境キャンペーンの走る広告塔としても活用する。</p> <p>市民だれでもが環境にやさしいライフスタイルを宿泊体験できる「(仮称)エコスクール」を開設し、近隣都市をも含め地域全体で環境問題に取り組む。</p>	<p>青森市 青森市教育委員会 H21 から</p>	<p>すべての小学校に「(仮称)地球にやさしい地域づくり委員会」が設置されるとともに、環境ネットワークを通して各学校の活動状況が把握できるようになることを目指す。</p> <p>環境に関する学習の効果については、家庭におけるエネルギー消費量の実態及び推移等を把握することにより測定するとともに、環境学習にフィードバックしていく。</p> <p>環境に関する学習の推進及びエコライフ行動への意識改革による2020年CO2削減見込... 41,458 t</p>
<p><b>(b) 省エネライフスタイルを支える取組主体の連携強化</b></p> <p>環境に関する学習を通してのCO2削減の実効性を高めるため、地域、企業、NPO、高等学校、大学などにおいても環境学習ができるよう、地域レベルでの学習ネットワークを構築する。</p> <p>地球温暖化防止に係る学習内容の質を高めるため、国や青森県からの情報提供(リサイクル実例、省エネ実例など)を迅速かつ簡便に受けられるネットワークの確立を確保しつつ、地域レベルから国際レベル(世界の冬の都市市長会)での連携強化を目指す。</p>	<p>青森市 H23 から</p>	
2-4- 課題		
<p>(a)環境バス、エコスクールについては、購入費用、建設費など財源確保が大きな課題となる。</p> <p>(b)国、県との協力体制の構築が必須である。</p>		

3. 平成20年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
<p><u>ICカードを通じた地域マイレージサービスの導入</u></p> <p>市民等の環境負荷の低減に向けた取組をポイントに換算加算することで定量化し、ポイントによる地域体験イベントへの参加や公共交通機関での利用を可能にするICカードを通じた地域マイレージサービス（青森マイレージ）を導入する。運用に当たっては、市民一人ひとりが無理をせず、その取組を持続・促進させることができる市民と行政の協働の仕組みを構築する。</p>	<p>主体：青森市、市民、事業者、</p> <p>時期：平成20年7月</p>
<p><u>市民協働によるごみ減量化・資源化への取り組み</u></p> <p>資源循環型社会の形成に向けて、ごみの減量化・資源化を進めていくためには、市民の理解と協力が重要である。市民協働の取組として、「ごみ処理」をテーマとした「まちづくりワークショップ」を新たに開催し、ごみ問題について、今までの枠組みや手法にとらわれない新たな視点に立って検討・実践していくことにより、市民運動としての展開を目指す。</p>	<p>主体：市民（15名程度を公募）</p> <p>時期：平成20年6月から2年間</p>
<p><u>レジ袋等の削減に向けた協定の締結</u></p> <p>日常生活で大量に使用されるスーパーマーケット等のレジ袋の削減は、ごみの減量化のみならず、CO2排出量の削減にもつながる重要な取組である。市民一丸となった取組を目指し、レジ袋等を配布する事業者、マイバッグ運動を進める市民団体、市の3者間で「レジ袋等の削減に向けた協定」を締結し、レジ袋等の削減を推進する。</p>	<p>主体：事業者（百貨店、スーパー等の協定参画者）、市民団体、青森市</p> <p>時期：平成20年6月</p>
<p><u>青森市総合都市交通戦略策定調査</u></p> <p>本市のまちづくりの基本理念である「コンパクトシティ形成」を支え、雪国における都市機能の効率的な配置と公共交通機関相互の連携を図り、平成22年開業の東北新幹線新青森駅開業インパクトを全市的に享受できる、人と環境にやさしい交通システムの構築を目指す。</p>	<p>主体：青森市</p> <p>時期：平成19年度～平成20年度</p>
<p><u>東北連携エネルギー研究センターの設置</u></p> <p>平成20年度中に、弘前大学を中心として、東北圏内の主要大学との連携により「（仮称）大学地域コンソーシアム」を立ち上げ、平成22年度までには「（仮称）総合エネルギー大学院」を設立し、CO2排出抑制をも含めた地球温暖化対策等に資する新エネルギー等の研究開発を推進する。</p>	<p>主体：弘前大学、八戸工業大学、青森公立大学ほか</p> <p>時期：平成20年度～</p>
4. 取組体制等	
<p>行政機関内の連携体制</p>	<p>青森市の環境政策の推進に関する事項、地球温暖化対策実行計画の取り組みに関する事項及びISO環境マネジメントシステムに関する事項等を継続的に改善及び管理するため、副市長を議長とし、関係各部長を委員とする青森市環境政策検討会議を設置しており、市の事務事業に係る検討と併せて、環境モデル都市の取り組みについても削減状況等を進行管理し、必要な見直しの検討等を行う。</p>
<p>地域住民等との連携体制</p>	<p>青森市地域新エネルギー・省エネルギービジョンの策定に併せ、「（仮称）青森市地球温暖化対策地域協議会」を設立し、市、事業者、市民が連携し、地域における地球温暖化対策を幅広く協議するとともに、具体的に対策を実践する組織とする。</p>
<p>大学、地元企業等の知的資源の活用</p>	<p>青森市に、東北圏域の各大学がこれまで培ってきた貴重な知的ストックを結集する母体形成し、エネルギー科学を基礎とした先進未来社会構築の拠点形成を目指す。具体的には、産学共同研究により、CO2の排出抑制や地球温暖化対策へと繋がる地域再生策を築き上げる。</p>

# 青森市環境モデル都市提案書(様式2)

## 1-1 環境モデル都市としての位置づけ

本市では、都市計画マスタープランにおいて、まちづくりの基本理念として「コンパクトシティの形成」を掲げ、雪や災害に強く、人口減少・少子高齢化に対応した、環境調和型の都市を目指すこととし、その後一貫して、中心市街地の活性化と市街地の無秩序な開発の抑制を車の両輪として持続可能なまちづくりを推進しており、このことを通じてCO2排出量の削減をはじめ自然環境との調和を進めています。

現在は、コンパクトシティの完成形に向け、東北新幹線新青森駅開業を踏まえ、中心市街地・交通拠点・周辺市街地等を結ぶ人と環境にやさしい公共交通システムの構築を目指し、並行在来線を都市内交通へと転換し、さらに鉄道網とバス路線網との連携強化により、利便性向上を目的とした「総合都市交通戦略」の策定を進めており、このことを通じて「コンパクトエコシティ」への転換を図ろうとするものです。

## 1-2. 現状分析

本市のCO2排出量内訳は、家庭部門と業務部門が他部門に比べて多く、傾向としては、家庭部門は平成12年度と平成16年度との比較で減少傾向にあり、業務部門は増加してはいるものの、全国と比較して伸率は小さくなっており、排出量全体としては既に減少に転じています。

この現象は、これまで一貫してコンパクトシティに取り組んできた成果であり、今後においては、最終段階を迎えるコンパクトシティをさらに高度化することにより環境調和型都市の実現を目指すことと、市民の省エネ型ライフスタイルの確立を目指すことを車の両輪として、CO2排出量の大幅削減を目指します。

## 1-4. 地域の活力の創出等

土地利用をコントロールするコンパクトシティが完成することによって、省エネルギー型の環境調和都市が実現するほか、次の都市像が実現します。

### 【雪に強い都市】

除排雪延長の抑制や流融雪施設の効率的配置等により、効率的な雪対策が可能となります。

### 【超高齢社会に対応した都市】

高齢者や車椅子利用者等の交通弱者の社会参加が容易となります。

高齢者にやさしい冬でも快適な居住環境が実現します。

### 【災害に強い都市】

地震等災害時における避難・救助ルート確保、短縮が可能となります。

地域コミュニティ意識の高揚により、お互いに支え合う地域社会が実現します。

### 【快適で効率的な都市】

渋滞の抑制が図られるほか、生活の利便性が向上します。

中心市街地の拠点性が高まり、商業・業務機能の回復・強化が図られます。

都市機能間のアクセス性が向上し、快適な都市環境が実現します。

## 1-3. 削減目標等

中心市街地への都市機能集約と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造及び人と環境にやさしい交通システムの構築による持続可能な都市の完成と、市民の省エネ・ライフの確立を車の両輪として進めることにより、長期的なCO2の削減目標として、2050年までにCO2排出量を平成16年度比50%以上の削減を目指すこととし、中間的な目標としては、2020年までにCO2排出量を平成16年度比30%以上の削減を目指します。

### 〔中間目標値〕

○家庭部門	現排出量	64.3万トン	削減量	20.7万トン	削減率	32%
○業務部門	現排出量	66.9万トン	削減量	23.2万トン	削減率	35%
○産業部門	現排出量	42.1万トン	削減量	4.7万トン	削減率	11%
○運輸部門	現排出量	41.9万トン	削減量	17.0万トン	削減率	40%
合計	現排出量	215.2万トン	削減量	65.5万トン	削減率	30%

### 〔削減目標達成の取組方針〕

#### ◎公共交通・イノベーション

コンパクトな都市構造の推進と併せ、人と環境にやさしい公共交通システムの構築を図ります。

#### ◎雪対策・イノベーション

除排雪の効率化と併せ、家庭・事業所の雪処理について化石燃料から自然エネルギーへの転換を図ります。

#### ◎エネルギー構造・イノベーション

バイオマス資源や新エネ・未利用エネルギーの開発・導入により、化石燃料に過度に依存しないエネルギー構造の構築を図ります。

#### ◎ライフスタイル・イノベーション

市民が積極的にCO2削減に取り組める仕組みを導入することにより、省エネ・ライフへの転換を図ります。

# コンパクトエコシティ戦略

～環境イノベーションによるコンパクトシティからコンパクトエコシティへの進化～

## コンパクトシティの形成

### 中心市街地活性化



バサージュ広場 駅前再開発ビル アウガ

シニア対応型  
マンション

まちづかい

まちそだて



### 自然環境の保全



八甲田山系・  
田代湿原

土地利用の誘導により  
保全された田園風景

エコシティへの進化により、さらに前進

- ★雪に強い都市
- ★超高齢社会への対応
- ★地域コミュニティの活性化
- ★生活の利便性向上

2020年30%削減  
活力と魅力に満ちた  
低炭素都市実現へ  
2050年50%削減

### ◆公共交通イノベーション



人と環境にやさしい  
交通システム構築



並行在来線を  
都市内交通に転換

環境イノベーション



### ◆エネルギー構造イノベーション

### ◆ライフスタイルイノベーション

### ◆雪対策イノベーション

ゴミ処理発電

バイオマス  
タウンの推進

自然未利用  
エネルギー活用

エコが見える・進む  
“青森マイレージ”  
システムの導入

環境学習の推進

ためない・こまめな除排雪  
(冬期交通の円滑化)

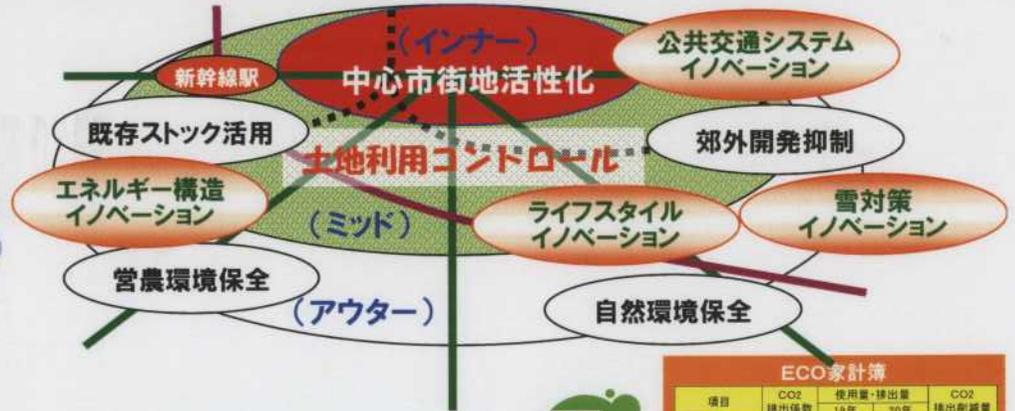
化石燃料に依存しない  
流融雪システムの推進

参考資料

# コンパクトエコシティ戦略

「いつまでも住んでいたい・いつか住みたい・うれしいまち」

環境イノベーションによる自立・協働・循環・持続できるコンパクトエコシティ



ECO家計簿

項目	CO2 排出係数	使用量・排出量		CO2 排出削減量
		19年	20年	
電気 kwh	0.39	5,100	4,800	117 (kg)
都市ガス m3	2.1	-	-	- (kg)
LPガス m3	8.5	70	65	32.5 (kg)
灯油 L	2.5	1,800	1,600	500 (kg)
ガソリン L	2.3	800	750	115 (kg)
水道 m3	0.30	180	165	5.4 (kg)

